

# 豊友会会報

大分市下郡字長谷496-38  
大分県教育会館内  
大分大学教育福祉科学部  
同窓会「豊友会」  
編集兼 古屋 虔郎  
発行人  
TEL 556-0145  
bundai-hoyu@fuga.ocn.ne.jp  
印刷所  
樹明文堂印刷  
TEL 533-8800

平成20年度  
**豊友会**  
評議員会

会長に

## 古屋 虔郎氏 を選出

### 組織の拡大・強化を重点に

本年度の豊友会評議員 会(総会)が、五月二十 四日、県教育会館で、役 員、評議員等関係者24名 が出席し開催された。

#### 永岡 恵一 氏が 講演

開会に先立ち、永岡 恵一 氏(宇佐神宮・国東 半島を世界遺産にする会 会長)が、「宇佐神宮・国 東半島の世界遺産登録を 祈って」と題し、世界に 発信する豊の国の文化の



提案する事務局

つづいて、母校の平田 利文前学部長が、「母校 が高い評価を受けている のは、同窓会の存在が大 きい。同窓会と連携を深 め、成果をあげたい」と 謝辞を述べた。

#### 十九年度 決算承認

議事では、日田支部長 の野田高巳氏を議長に選 び、平成十九年度の事業 計画、会報報告決算の承 認について討議された。 決算については、会計 監査報告を会員拍手で承 認した。

大分大学教育福祉科学部は、 分県民教育と福利厚生、科 学学生 活に關する指導的役割を果す 人材育成の学部です。 医学、工学、経済各学部と一 体になって県民の命と健康を守 り県政、企業経済を支え、大分 県民一人ひとりの「幸せ」を創 造することが大分大学 存立の使命でありまし ゃう。そしてそのこと は在学生卒業生の如何 を問わず「志を一つに するもの」として同窓会 組織に意志結集する。同窓会組 織は当然ながらその使命達成の ため組織の一員として、あるい は組織全体として何をどのよう にするのか、意志と行動力が強 く求められています。 さる五月二十四日、大分大学

会長	古屋 虔郎
副会長	嶋津 文雄
	安田 睦子
	園田 和孝
顧問	大岩幸太郎
監査	安東 吉子
	中野 守



退任者に感謝状を

長が副会長にそれぞれ選 出された。 また、顧問に大岩幸太 郎学部長が、監査に中野 守氏がそれぞれ就任した。 新会長挨拶の後、退任 者に感謝状が贈られ、総 会を終了した。

大分大学教育福祉科学部同窓会が 教育福祉科学部豊友会の総会が 開催され、会長を仰せつかりま した。 存在を大きく高くしなければな りません。一八七二年公教育発 足以来大分の教育を背負い、創 造してきた先輩の皆さんの自負 と誇りを引きつぎ、さらに福祉 科学の分野でも使命を果してい きたいと思ひます。



古屋 虔郎 (昭和30年卒)

### 同窓会意識の結集を

上私の限界に挑戦して、 これまで皆さんにご支 援頂いた万分の一のご 恩返しを決議していま す。

## おめでと〜ございませす

◎瑞宝双光章 高田 浩己氏 (昭和31年卒)

◎瑞宝双光章 首藤 年伸氏 (昭和33年卒)

◎藍 綬 褒 章 鶴岡 千ズ子氏 (昭和26年卒)

◎藍 綬 褒 章 鶴岡 千ズ子氏 (昭和26年卒)

### 受章の栄に浴して



大分市 高田 浩己 (昭和31年卒)

この度、平成二十年春 の叙勲に際しましては、か らずも瑞宝双光章受章の 栄に浴しました。去る五 月十二日東京国立劇場に おいて叙勲の式典があり

を親しく会釈しながら退 出され、私は深い感動を 覚えました。 私は昭和三十一年川添 小学校にはじめて赴任し て以来、大分市内の小 学 校 や 行 政 関 係 に 勤 務 し 荷 揚町小学校を最後に退職 しましたが、その間、そ れぞれの職場において多 くの先輩の方々にあた た 員 として職務に専念し成 果を挙げられたことに感 謝しますとお言葉頂き、 ご指導を頂き、また同僚 たいと思っております。

### 藍 綬 褒 章

### 愛情を注ぎつづけて



由布市 鶴岡 千ズ子 (昭和26年卒)

平成二十年春の褒章に ございました。 教職に二十七年間勤務 し退職後昭和五十八年法 務省の委嘱を受け保護司 になって二十五年間犯罪 を犯した者の立ち直りを 助け、又犯罪予防のため に微力ながら努めてまい りました。犯罪を犯した 少年達に母親のような温 かい愛情を注ぎ誠意をも つて更生させる事は苦勞 美だと感謝しています。 これも皆々様の多年に 亘るご指導・ご支援の賜 と家族共々深く感謝いた してまいります。 今後一層精進し些かな りとも地域社会にご奉仕 させていただきます。ご ざいます。 豊友会の益々のご発展 を心よりお祈り申し上げ ます。

### 嵐

最近、同窓 会に入ってい ても会費を払 うだけでメリ ットがない、 という声を聞 く。確かに経済至上主義 の社会では、金銭を払え ば何らかの見返りがある 筈だという考えを単純に 否定することは出来ない。 ▼人間の社会活動から得 られるメリットには、物 質的なものと精神的なも のがある。いずれも生き ていく上で必要なもので あって、その価値を比較 することは出来ない。し かし、そのバランスの如 何によって、人間の質が 問われかねないのも事実 である。▼同窓会のメリ ットの一つに、そこから 発信される情報をもとに 知的活動ができるという ことがある。メリットは 棚ボタ式に与えられるも のではない。何がしかの 活動の対価と考えれば、 情報の受け取り方次第で それなりのメリットは生 じないか。▼新しい知識 を得た、共感した、異論 が湧いた等の思考活動が 行われれば、まさに知的 生産があったといえる。 更にそれらを発信すれば 尚更である。それがそが メリットであろう。勿論 情報を発信する側に、思 考活動に備するものを提 供するという責任が生じ るのは当然であるが、▼ こんな考え方も、考える 力の弱ったといわれる現 代の子どもたちに、聞き 流し、読み流しをしない 習慣を育てる参考になり はしないだろうか。 青あらし吹きぬけ思ひ くつがへる(加藤秋郎)